

# 6月号 / 2018 研究局進捗情報

## テーマ

### 「色々な子供が生きる時間」

#### ○子供の実態・教育課題・目指す児童像

子供たちは十人いれば十通りの見方・考え方・表し方をもっています。図画工作科では、教師側の特定の価値観や方法論を教え込むことでそれぞれのもつ個性や創造性を失くしてしまわないように、教師が教えること、子供が主体的に学ぶことのバランスを考え、子供がもともと持っている学ぶ力を引き出して育成することが求められています。

研究局では、これからの生産年齢人口の減少や変化の激しい時代に向け、自分自身で考え、自分で決め、創造性を発揮するとともに、他の人の個性を認めることのできる寛容さをもつ児童の育成を目指します。

#### ○色々な子供が生きる時間

子供たちが将来、一人一人の個性を生かして活躍することのできる未来に向けて、図画工作を通して自らの個性を生かして創造性を発揮する素地を培ってほしいと考えます。これまで図画工作では、主題や表現方法、用具や材料、場などを「子供主体の

学び」になるように教師が授業をデザインしてきました。研究局ではそれをさらに推し進め、すべての子供が楽しく、主体的に学ぶことのできる授業実践を目指します。そのために私たち教師は子供たち一人一人の見方や考え方、感じ方を大切にしながら創造的な造形活動を行い、子供たちが自分なりの意味や価値を見つけ出し、造形的な視点についての実感を深めていくことに寄り添っていきます。

#### ○実感することの大切さ・研究課題

昨年度、実感・自己決定・創造性をキーワードにして研究を進めてきました。しかし、三つあることで一つ一つが深まらないという課題が挙げられ、今年度は“実感”に絞って研究を進めます。実感するという言葉には、物事に直接触れて感得する、実際に事物に接したように生き生きと感ずること等の意味が出てきます。実感することを中心に据えた学びをつくることは、子供たち一人一人の感じ方を大切にすることに繋がります。研究局では実感を「感覚的な理解」と定義しました。公開授業では実践からテーマや実感に迫ります。是非多くの方々に来ていただきたいと思います。

都図研研究局長 栗本 圭（武蔵野：本宿小）

## 研究局公開授業 7月19日（木）足立区立竹の塚小

### 都図研会員名簿 2018 版進捗状況報告！

各地区の名簿担当委員や理事の皆様を始め、多くの方々のご協力により今年度の都図研名簿の作成は順調に進んでいます。5月15日の理事会にて、理事の方々に校正・確認をお願いしました。その作業も期日内に行っていただき、ありがとうございました。現在細かい部分の確認をしております。

1学期中の名簿配布を目標に取り組んでおりますので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

《都図研名簿に関するお問い合わせ先》

荒川区立第二峡田小学校 齋藤 貴子 TEL：03-3801-2002 Fax：03-3801-9812

事務局庶務部長 齋藤 貴子（荒川：第二峡田小）

# リレー掲載 多摩市立北諏訪小学校の図工室

学校でひとつの図工室。普段はなかなか見ることのない他校の図工室を訪れて、気になる所を突撃取材！

## 南多摩ブロック

今回は、富樫秀人先生の図工室を取材します。

小田急・京王永山駅を降りてすぐとは思えないような青々とした丘陵の坂道を、ぐるりと回り階段を上ったそのてっぺんに北諏訪小学校はある。小さな門をくぐると、目の前に図工室があり、窓から富樫先生が「こんにちは」と顔を出してくれた。

図工室に入ると、まず印象的だったのは、その明るさだった。東西の壁が大きな窓になっていて、日当たりが良く、風通しが良い。学校が丘の上にあるから、窓から空も見える。

ところが、理由はそれだけではない。図工室が隅々まで、驚くほど整然としている。まず、材料や用具が一見どこにも見当たらない。子供がつくった作品や、はたまた、つくりかけのものすら、どこにも見えない。

富樫先生が最初に案内してくれたのは、隣の部屋。教室の半分のスペースが、いわば「バックヤード」のようになっていて同じ規格の段ボールが積み上がっていた。よく見ると、段ボールには「1組1班」「1組2班」というラベルがついている。つくり途中のものを、子供が自分たちで箱の中にまとめて管理できるようにしている。これなら、配る手間もなく、子供たちはすぐに活動に取りかけられる。

さらに、図工室に戻ると、閉められていた棚の扉の中から、班ごとに箱にまとめられた用具を出して見せてくれた。一つ一つの用具には、「1-A」「1-B」とナンバリングされている。子供たちが、活動の中で何を使うか一目でわかるだけでなく、片付けもしやすく、用具の紛失の心配もない。

カッターナイフやのこぎりに限らず、アクリル絵の具も、一つ一つ蓋の閉まるタッパーに入れて、一人一人にタッパーごと配っているのだという。

「本当にこれが正しいやり方なのかはわからないけど、正直、僕がやりやすいんだよね」と笑いながら話す富樫先生。図工室をマネジメントする先生自身が使いやすいことが、子供たちの使いやすさに直結しているのだろう。

7年間、特別支援学級で勤められた経験のある富樫先生ならではの、子供を困らせない安心できる図工室。でも、終始にこにここと笑って話される富樫先生のお人柄こそ、この図工室の明るさと安心感をつくっているのだろう。

担当者：事務局 広報担当/取材担当者：渡邊 裕樹（昭島：つつじが丘小）



初挑戦の題材への思いを楽しそうに語る富樫先生



日時 // 7月5日(木)  
場所 // 江東区立第三大島小学校

☆ 講師の内野 務 先生に、木工の題材紹介を交えながら、ご講演をいただきます。

☆ 第二部/全体会・講演 ☆

★第一部/実技研修・グループワーク★  
実際に材料に触れながら木のよさや、子供の木の学びについて考えたり、自分の授業について考えたりしていきます。

研修1では、『木』に焦点を当てた研修を行います。実技研修、グループワーク、講演を通して「木のよさ」や「子供の学びを考えた授業づくり」について考えられるような研修にしていきたいと思えます。ぜひ、ご参加ください。

「図工で培う力を考える」  
子供が感性を働かせ、自分の力でつくりだそうとす図工の授業改善（指導と評価）

# 『木でつくる』

## 研修1 告知

研修局長  
原 薫美子

(町田：七国山小)